

さくら通信

令和8年 1月発行

《発行者》

さくら動物病院

新聞編集委員

戸谷 下島

新年明けましておめでとうございます

皆様のおかげをもちまして 25 年目を迎えられました。旧年中は多くの方々との出会いをいただき感謝します。治療を行うことで病気が治りご家族の喜ばれる顔に会える嬉しい出会いもあれば、治療を行っても完治しない病気には会うこともあります。完治に至らない病気と分かった時、その病気やその治療に対する考え方はご家族によって様々です。完治しない病気に対してどのように向き合い、どのように付き合っていくか。ご家族の方と一緒に考え、一緒に悩み、動物たちとそのご家族を支えていける動物病院でありたいと思っております。今後も地域の皆様に貢献できるよう努力していく所存であります。

当院はアットホームな地域に根付いたホームドクターであるとともに世界最高水準の医療を提供できる病院を常に目指しています。「地方だから治療できないので大学病院に行ってください」ということは言いたくありません。地方にいても動物たちには最高の医療を選択できる病院でありたいと思っています。近年、病院スタッフの努力のおかげで専門分野が充実してきました。特に眼科、再生医療、内科、消化管内視鏡、については十分満足していただける医療を提供できます。今後も専門分野を広げながら「人と動物の笑顔」の為に各スタッフ自己研鑽を積み上げていきたいと思います。しかしながら医療(治療)が先行しては本末転倒です、「木のみを見ず、森を見る」ように対話を重視したトータルケアを心がけますのでどんな些細な事でもご相談ください。

動物・オーナー・病院は三位一体でなければいい医療は提供できません。是非とも困っていること辛いことを話してください。必ず解決の糸口が見つかるはずです。

今年もよろしくお願ひいたします。

さくら動物病院
長野どうぶつ眼科センター
長野どうぶつ再生医療センター
院長 横山篤司
2026年 元日

猫コラム

獣医学部というと必ず野良猫や野良犬の保護活動サークル的なものがある。私の友人がそれに所属していた。ある時、どうしても一匹預かってほしい猫がいるといわれた。以前にも子猫をお願いされたことがあったし、里親もすぐ見つかったため、今回も短期間だけだろうと思い快諾した。それがムーとの出会いだった。

彼女はもはや子猫ではなかった。7ヶ月くらいと言われたがとても大きかった。友人の保護団体は地域のコンビニに保護猫たちの里親募集のポスターを貼っていて、たくさんの子猫の写真の中に、抱っこを嫌がるムーの不細工な写真があった。ムーは美猫（翡翠色の目にピンクの鼻のサバトラ）だったから、なぜこの写真なのか。。。これじや里親見つからんと思っていた。そして尻尾のない彼女はコアラという名前だった。コアラって感じじゃないけどなあという不満もあった。

案の定ムーはなかなか手がつかなかった。長く一緒に生活すれば情が移るのはよくある話し。ついに三沢米軍基地のアメリカ人が彼女を欲しいといってきた時には、やっぱり私が飼う！と言ってしまったのだった。

そこから13年、彼女がリンパ腫という病気で亡くなるまで、彼女は私に猫とはなんたるかを教えてくれた。猫の発情期の激しさを知らなかつた私は24時間鳴き続けるムーのせいで寝不足となり期末試験をほぼ全部落とした。彼女が脱走して5日間行方不明になった時の喪失感。その後、近所の精米所にいるのを発見したときの安堵感。（精米所の人は機械の下からムーを引っ張り出すのを手伝ってくれたし、ネズミを食べた後があったんだよなあと教えてくれた。）東日本大震災の時、東京にいた私は帰れなくなり青森の海辺の高台のアパートに彼女は取り残された。1週間後に無事に会えたときは言葉が出なかつた。いろんなことがあつたし、好奇心旺盛で我が強い彼女との生活は刺激に満ちていた。ずっと一緒にいても毎日発見があつた。

彼女が病気になった時、それが彼女の命を奪うことになるとわかつて地面の底が抜けるような恐怖だった。獣医でも結局は一飼い主なのだ。凶暴な彼女の検査や抗がん剤治療は大変で、本当にこれが彼女のためなのか自問自答の日々だった。1日でも長く彼女といつたかった私のエゴのような気もした。でも、最後まで彼女は彼女らしかつた。最期はもう逝くからねと教えてくれて私の腕の中で息を引き取つた。

あれから随分と時間が経つたが彼女との思い出は今も私の心の中心にあり、私の獣医人生を支えてくれている。彼女おかげで猫の魅力にとりつかれ、その後たくさん猫たちと出会い、立派な猫おばさんになった私は『猫は9回生まれ変わる』という伝説？を信じてまた人生のどこかで彼女に会えるのを待つてゐる。

低温やけどにご注意ください！

冬になるとストーブや湯たんぽ、ホットカーペットなどの暖房器具を使う機会が多くなります。我が家愛犬、愛猫のためにペット用のヒーター等をご用意されている方も多いのではないでしょうか？冬の寒さに負けないために暖房器具は欠かせませんが、使い方を誤ってしまうと「低温やけど」のリスクが高まってしまいます。特に犬や猫は被毛に覆われているため人より熱さを感じにくく、やけどが重症化しやすい傾向があります。今回は、低温やけどの危険性と予防法についてお話しします。

低温やけどとは？

体温より少し高い温度(44~50°C程度)の熱源に長時間触れることで起こる火傷です。熱源の温度が低くても、長時間接触することで重症化してしまいます。

発症の目安は以下の通りです。

44°C : 3~4 時間程度

46°C : 1 時間程度

50°C : 30 分程度触れ続けるだけでも発症の可能性あり



主な症状

- ・皮膚が赤くなる
 - ・水ぶくれ
 - ・腫れ
 - ・触ると痛がる
 - ・同じところをずっと舐める
- など

低温やけどさせないために！

・ホットカーペット、ペット用ヒーター

直接上に乗らないようにマットや毛布を敷いておく

温度は38°C程度に設定する

サークルやケージ内で使用する場合は、必ず温められていないスペースをつくる

・湯たんぽ

直接触れないように、厚手のカバーや毛布で包む

時々触って確認し、熱くなりすぎていないかチェックする

・こたつ

時々布団をめくって温度を下げる

定期的に外に出してあげる

・ストーブ

周囲を柵などで囲って近寄れないようにする

ペットが自ら離れない場合は飼い主が移動させる



ペットが快適に冬を過ごすためには、飼い主が適切に暖房器具を使用することが大切です。また、異変にいち早く気づいてあげるためにこまめな皮膚のチェックを心がけましょう。もし低温やけどになってしまった場合は、軽いやけどと放置せず動物病院へご連絡ください。

新人スタッフ紹介

新しくケアスタッフさんが仲間入りしました！



12月よりケアスタッフとして働かせていただくことになりました竹内絵梨と申します。
不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけするかと思
いますが、動物たちが少しでも落ち着いて過ごせ
るようサポートして参りたいと思います。
どうぞよろしくお願ひ致します。

さくらスクール開催のお知らせ

2026年
3月22日(日)

場所: こもろプラザ
市民交流センター
開場 13:00 開演 13:30

参加申し込みは受付、お電話にて行っております。

人数に限りがございますので定員に達しましたら終了とさせていただきます。

SAKURA ANIMAL CLINIC
さくら動物病院

長野どうぶつ眼科センター(併設)

休診: 火曜日／第四日曜日／
木・日・祝祭日の午後

ホームページはこちら!
獣医師出勤表、お知らせ随時更新中!



休診日・午後休診は
当院のホームページまたは
お電話にてご確認ください。